

お台場の海をおいしくしよう!!

港陽小学校では、お台場海浜公園に面した立地を生かし、アマモや海苔づくりなどお台場の海的环境教育に取り組んでいます。平成17年度には、5年生が台場の海で43年ぶりに海苔養殖を復活させました。以来毎年5年生が海苔づくりを実施し、今年で4シーズン目を迎えました。



長〜い海苔ひび(支柱)を建てました(12/23)

お台場の海は東京大学の調査によれば、普通の日海水浴場としての水質基準を一応満たしています。ただ、雨が降った後に、処理場で処理し切れなかった下水が直接入ってきたりすると水質が悪くなったりします。今でもお台場の砂浜には、アサリ、コメツキガニ、マテガイ、アナジャコ、海の中には、スズキ、ハゼ、カレイだっているんですよ。もっともみんな環境を良くして、生き物がたくさんいる海にしようという取り組みは、東京湾全体でも盛んになっています。

お台場での海苔づくりは、この3年間で子ども達や保護者にも好評で、まさに台場ならではの海苔づくりを、学校という枠の中だけで終わらせてしまうのはもったいないと、今年は地域の方々も一緒に海苔の養殖に取り組みました。

12月23日に、海苔養殖の第一歩、海苔ひび(支柱)建てと海苔網張りを、地域の皆さんで体験・見学をしました。等間隔に建てた支柱に、海苔芽のついた網を張って海苔が育つのを待つのですが、干満の差がある海で生育するために、適度な時間を海面より上に出るように微妙な位置に網を張らなければいけません。作業は「お台場環境教育推進協議会」メンバーの本職の漁師さんやNPOの方々の強力なサポートがあって進められました。育った海苔は日本食品分析センターで検査し、今年も安全であることが確認されました。



海苔網を引き上げます



みんなで海苔摘み



武井区長も海苔すきに挑戦!



すずり並んだ「お台場海苔」

そして2月14日、待ちに待った海苔摘み、海苔すき作業、そして試食会です。初夏を思わせる天気の中、引き上げた網から海苔を摘み取り、刻んで、すいて、天日干しにして板海苔を作りました。摘みだての生海苔で作ったお味噌汁の味は絶品!まさに「ふるさと台場」の味で、子ども達も何杯もおかわりをしていました。何よりも感動的なのは、天日で乾いていく海苔から聞こえる「パリパリ」という軽やかな音。「海苔が鳴く」というのだそうです。港陽小学校前の歩道に並べて干してあった海苔が鳴く「パリパリパリパリ…」という音に、道行く人も足を止め聞き入っていました。5年生が前日の授業で作った海苔とこの日の分と、合計400枚以上の板海苔ができ、港陽小学校全校生徒と参加した地域の皆さんが持ち帰り、「お台場海苔」を味わいました。

今後もお台場の環境を良くするために、いろいろな取り組みを行います。ぜひ皆さんも参加してください。

連載コラム キラリ爽やか『もう一つの箱根駅伝』選手の多くが探検部とか、さすがのチャレンジ精神!

年明け松の内の昼さがり、所在なくつけたテレビで放映されたもう一つの箱根駅伝、それは正月恒例の箱根駅伝と同じコース(大手町スタート)を、ゴミを拾いながら1区2区とタスキをつなぎ、3区で野営し、芦ノ湖集積所を目指すレースです。ゴミの量と到着順位を合わせたポイント制で競われ、今年は12大学16チームの男女71名の選手が参加したそうです。その結果、タイムは21時間で6位でしたが拾ったゴミが45リットル詰め30袋!!と一位だった麻布大学が、第4回総合優勝を勝ち取りました。

参加全チームが2日間かけて拾ったゴミの総量は200袋と今年の倍、花の2区といわれる鶴見戸塚間が旗や空き缶等ゴミが一番多かったそうです。捨てられたゴミは分別すれば資源です。この競技は一部報道もされたようですが、私が見た映像はたった5分足らずでした。一瞬だけでも何も残らない番組が多いなか、唯一心に残った映像でした。ちなみにグッドサポーター賞は慶応義塾大学と明治学院大学、立正大学でした。来年は1月9日開催予定です。



整った街並みをより美しく~キヤノンマーケティングジャパン(株)有志の地域貢献活動

1月29日午前8時30分、出勤を急ぐ人々が行き交うJR品川駅港南口の品川グランド commonsの一角にあるキヤノンマーケティングジャパン本社ビルのロビーに、社名入りの白いジャンパーに身を包んだ社員が勢ぞろいしました。地域貢献活動にボランティアで参加したキヤノンマーケティングジャパン(株)とキヤノンビジネスサポート(株)社員の有志の皆さんです。



ビルの周りの生け垣に隠れたゴミも見逃しません

品川駅からグランド commonsの端まで、広い道路の両側でのタバコの吸い殻、空き瓶、空き缶などの回収に、約1時間にわたり熱心に取り組みました。「駅から本社ビルまでの道路でタバコのポイ捨てをする社員がいるのを見て、地域の美化にいささかでも貢献したい」との思いから始まったこの活動。「近隣の企業にも賛同してくれる人たちがいるので、今後は輪を広げていきたい」とのことでした。



出発前、リーダーから活動の目的や進め方の指示を受ける有志一同

芝浦小学校の児童が地域清掃活動を行いました

2月17日、芝浦小学校の1年生~6年生が、芝浦小学校の周りや田町駅の階段下等の清掃を行いました。寒空のもと、子どもたちはさまざまなところに目を凝らしてゴミを探し、「あっ、タバコの吸い殻だ!」、「あっ、空き缶がある!」と言いながら拾っていました。子どもたちがまちの清掃をしていると、通りかかった人たちから「がんばってね」と声をかけられ、さらに熱心に取り組んでいました。また、今回は東京コカコーラボトリング(株)の社員の皆さんも清掃活動に参加していただきました。



狭い隙間にゴミが溜まっているようです



「ほら、こんなに拾ったよ」とゴミ袋の中を見せてくれました

また、子どもたちがまちの清掃をしていると、通りかかった人たちから「がんばってね」と声をかけられ、さらに熱心に取り組んでいました。また、今回は東京コカコーラボトリング(株)の社員の皆さんも清掃活動に参加していただきました。

春です。お一人様用だけじゃない!?楽しいミニ家庭菜園のお薦め

昨年、芝浦港南地区総合支所でも温暖化対策として地元の方々との協働で緑のカーテン作りに取り組み、総合支所を訪れた方々にも好評でした。緑の癒しと収穫の楽しみで人気のゴーヤは、生食もでき、苦味の少ない白ゴーヤ等種類が豊富です。園芸専門店には、食の安全に関心の高い消費者のニーズに合わせ、家庭で簡単に収穫できる小型化された野菜類やキノコの簡単キットにいたるまで、実にさまざまな品種が揃ってきました。ちなみに、農業世帯の減少が年間7万と言われている日本で、全国平均の食糧自給率は、平成20年度で39%、東京での試算は消費税率以下とも言われています。地産地消の原点は家庭菜園。ささやかでもミニ菜園作りの体験は、安全な国産品をも大切に使い切る



窓際の鉢は保温でプチプチシート巻



習慣がつく効果もあります。少しでも採れたて野菜のみずみずしさを味わってみませんか。

※参考資料(農水省公開概算値、平成19年度輸入農産物5兆5,304億円、林産物1兆3,905億円、水産物1兆665億円)現況、農業人口の減少で自給率が減少するなか、農水省は平成27年度自給率目標値を45%に設定しています。